

参加者募集!

国学院大学生と一緒に 山づくりを学ぼう!

平成 17 年 9 月 17 日(土)・18 日(日)

内容: 17 日 町内の森の間伐&木出し作業体験
18 日 きのこ採り&きのこ汁(午前で終了)
中学生以上、定員 10 名・会費 3,000 円。

交流会にも、交流会だけでも参加しよう!

日時: 平成 17 年 9 月 17 日(土) 午後 6 時 30 分~

場所: 紫波グリーンホテル

会費: 3,000 円

詳しくは事務局まで。



あなたもチャレンジ野崎レシピ!

今回は産直でよく見かける、今が旬のズッキーニを使った料理です!

【材料】

| | |
|--------|-------|
| かぼちゃ | 400g |
| ズッキーニ | 1/2 本 |
| 薬味 | 適宜 |
| 揚げ油 | 適宜 |
| (a) だし | 300g |
| 薄口しょうゆ | 50cc |
| みりん | 40cc |
| 削り節 | 少々 |

【作り方】

かぼちゃは 2cm 角に切る。
ズッキーニは縦半分に切り、種を除いておき、スライスする。
鍋に(a)を合わせ、火にかけ沸騰したら漉しておく。
①・②を油で揚げ、器に盛り、③の熱々の汁をかけ、薬味をのせる。

参加しました! (50音順)

7/29 ワン・コイン・セミナー「食は地元にあります!」第5弾

阿部礼子、川村浩亮、菊地みどり、熊谷勝子、志田澄子、高橋米勝、足澤澄、中田久敏、藤滝学、松坂みき子

7/30 第11回環境探検隊 ふれてみよう!入ってみよう!北上川!

笹井由香、佐藤由美子、高野修、高橋米勝、藤滝学、八重畑祐見子、吉田修

..... 記入もれがあったらすみません!

編集後記

最近地震が頻繁に起きています。皆さんもいざという時のために防災に気をつけてください。

さて、今年度も半分が過ぎ、折り返し地点に来ています。今年度の会費の納入がまだの方は、右記口座まで振込をお願いします。《事務局》

年会費 個人会員: 2,000円

団体会員: 3,000円

賛助会員: 10,000円

岩手中央農業協同組合 紫波町役場出張所

普通口座 4217490

口座名義: 紫波みらい研究所 理事長 高橋米勝

郵便貯金総合通帳 記号18390 番号12505671

口座名義: NPO法人紫波みらい研究所

みらい通信

第11号

発行元 NPO法人紫波みらい研究所
 連絡先 〒028-3305
 岩手県紫波郡紫波町日詰字郡山駅57-3
 電話・FAX 019-676-6103
 E-Mail miraiken@shiwa-mirai.com
 ホームページhttp://www.shiwa-mirai.com
 発行日 平成17年8月

環境・循環PRセンター上棟祭

平成 17 年 8 月 10 日(水)



<理事長あいさつ>

会員の皆さま 残暑厳しきおり、いかがお過ごしでしょうか。

日頃の活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、8月10日(水)に、JR紫波中央駅待合施設北側に建設中の「環境・循環PRセンター」の上棟祭・直会が、環境・循環PRセンター建設協会の主催で行われました。

このセンター建設は、昨年9月に不幸にも火災に遭遇した紫波町立虹の保育園の被害木をなんとか再利用できないかという考えから、森と家づくりの会が中心となって「PRセンター」の建設を町に提案し、実現したものです。

その提案は、次のような内容でした。

- 1 循環・共生・参加まちづくり環境大臣表彰を受賞した紫波町の「循環型まちづくり」をPRする拠点となるような場所を作ってはどうか。
- 2 建設にあたっては、みらい研究所の森と家づくりの会が中心となり、虹の保育園の被害木をボランティアで製材する。
- 3 大工さんから建設に関わる全ての業者や町民(みらい研会員を含む)にボランティアで作業をしていただく。

おかげさまで町直営の工事として実現し、7月25日に着工の運びとなりましたが、本研究所が中心となって立ち上げた環境・循環PRセンター建設協力が協力し、工事も順調に進んでいます。



この建設協会の主催により8月10日に行われた上棟祭は、棟上げ式または建前ともいわれ、柱、梁、桁、力板などの骨組みが完成した後、棟木を取り付けて補強する際に行う儀式のことです。今では、上棟祭を省略することがありますが、今回は、たくさんの町民や子どもの方々に見ていただきたいと思い、できるだけ昔の風習どおりに行いました。

建物の上には、矢頭と五色の吹流しが据えられ、建物内で棟木を引き上げる曳綱や槌打などの神事がとり行われました。また、撒餅(さんぺい) - 「かかもち」と言って玄関前に餅を落とし、建主の女房がその餅を箕(み)で受ける儀式 - や建物全体の平安を祈願して、四方から隅餅(すみもち)を撒きました。その後で、ご参集のみなさんには、4千8百個もの餅まきを行いました。また、上棟祭を祝い、紫波ひめ隊のみなさんに踊りを披露してもらったり、子どもたち楽しんでもらうために屋台も用意してもらいました。

この上棟祭に関わった全てのボランティアの皆さんに、深く感謝申し上げます。



環境・循環PRセンターの完成は、9月下旬を目標としております。そこで、これからの建設に関して、

会員のみなさんにボランティアでご協力をお願いしたいがございます。

《ボランティアの内容》

1 外壁の塗装作業

日時 8月27日(土)午前9時15分
紫波中央駅北側
(作業時間は2時間程度です)
持ち物 ヘルメットはご持参願います。その他(軍手、刷毛)については準備いたします。
雨天の場合中止となります。

2 インターロッキングブロック設置に伴う補助作業

日程 9月中旬

参加していただける方は、紫波みらい研究所事務局までご連絡ください。

なお、環境・循環PRセンターが完成後、本研究所の入所が予定されていますが、PRセンターの活用方法を町に提案していきたいと考えておりますので、会員のみなさまからのご意見ご提案をお待ちしております。

ワン・コイン・セミナー 「今、産直は大きく変わる」に参加して

平成17年7月29日(金)

5回目となる今回のセミナーは、産直組合協議会会長の堀切眞也さんをお迎えして、10年間の産直の歩みと、その経験を生かして「産直(生産者)と消費者が今後どう関わっていけばいいのか、そのために産直がどう変わっていかねばならないのか」についてお話ししていただきました。

19時から始まったセミナーは、24人が参加する中、21時半まで熱い意見が交換されました。



おいしいトウモロコシやしょうゆだんごを頬張りながらの楽しい時間となりました。

堀切さんからは、産直の現状について次のようなお話がありました。

産直と呼ばれるものは、全国に1万ヶ所、岩手県には500ヶ所(県では群馬県に次いで全国2位)あると言われ、紫波町には8ヶ所ある。

最近では、企業や生協の経営する産直など様々なものがあるが、紫波ふる里センターでは、「その地域に住む人が出資し、作り、売る場」と定義し、その考えを頑なに守っている。

農協の系統販売は出荷に当たった規格がきびしく、おじいさん・おばあさん・主婦の農業では対応できない。この人たちは、産直があることで助けられている。

また、今後の産直の在り方については、次のようなお話がありました。

産直は、「売ればよい、会員が良ければよい」ではない、地域の活性化につながらなければ意味がない。

「誰が、なぜ来るのか」「どういう狙いでくるのか」という「自分の立地」を知ることが大事になる。

産直の売る農産物には、スーパーと違って規格品はない。また、産直では、商品ではなく、安全安心の食・命の糧を売る、喜びを売る。

他の産直との違いなども、わかりやすく、おもしろくお話しいただき、参加したみなさんは、真剣に聞いていました。

最後に、地元で採れた新鮮なものを学校給食に活用することが大事であり、子どもたちに食の大切さを教え、命をいただき生かされていることに対する感謝の気持ちを育むための「食育」が大事であることが話され、参加者一同がうなずいていました。



(地産地消部会)

第11回環境探検隊—川下り—に参加して

平成17年7月30日(土)

数日前には台風の接近で、大雨による増水が心配でしたが、当日は天気予報通り晴れでホッとしました。

こちらの連絡や確認不足で、紫波橋下での開会式の時にスタッフのメンバーがそろわずもたついてしまいましたが、会員の高野さんが機転を利かせて、参加者を連れて川辺の散策をしてくれたので、大変助かりました。一般の参加者は大人6人、子ども8人、スタッフ6人の計20人です。

出発地点でのボートの準備では、参加者全員で空気入れを順番に体験しましたが、空気入れが少なく、なかなかゴムボートが膨らまずにせりました。



ボートの準備も整い、川を知る会の指導者のお兄さんから注意や説明を受け、汗だくになった体にライフジャケットを着けて、いよいよ出発です。出発地点は、徳田橋から約2km上流にいった場所です。やっと水面に4艇のボートを浮かべた時は、熱くほてった顔にさわやかな心地よい風があたり、頭の中を透明にしてくれました。

私の乗ったボートには、初めて参加した3年生の男の子と2回目の女の子がいっしょでしたが、女の子は、「川に入りたい」と大変積極的でした。舵取りのお兄さんには、「オールのごき方が揃って一番早く進むよ」と誉められました。

途中の中洲でボートを降り、川の中の2箇所でもウォーターライダーを全員が体験しました。小さい子は少し固くなりながらも川流れを楽しんでいたし、お父さん、お母さんたちも「川と一緒になれたような気がする」と感激していました。川流れの後には、

水質検査や水の中の生き物観察をしましたが、思いの外、水の汚れも少なく、きれいな水にしか住めない虫を見つけたので少しは安心しました。



ボートから見る川岸の枝には、たくさんのビニール類が引っかかっていたのですが、子どもたちは、お兄さんから「これが海に流れていって、海を汚しているんだよ」という話を聞いてびっくりしていました。

子どもたちは、ゴムボートの他にもカヌーに乗せてもらって、スピードの違いや自由自在な動きも楽しんでいました。



紫波橋が見えてからゴール「水辺プラザ」までは思ったより長く、疲れも出てきたのか、みんな無口になっていましたが、ゴールしたとたん、大声を上げて元気に喜び合っていました。

私は昨年、スタッフとして参加しながらも怪我のためボートに乗ることができませんでした。昨年の悔しさが吹き飛んでしまうくらいの達成感を味わうことができました。

3時間にわたる川下り体験でしたが、ふだん見ることのない川からの紫波の環境を体験した探検隊でした。

(八重畑 祐見子)

アンケートより

- ・ ボートやカヌーに乗って、水や風が気持ち良かったです。
- ・ 魚を捕まえられてよかったです。また行きたいです。
- ・ 川に入るのが好きなので、今回の行事はとても楽しかったです。
- ・ 今回は小学校から申込み用紙を持って帰り、夏の思い出のひとつにと参加させてもらいました。親子でとても楽しく体験させてもらいました。スタッフの方々、本当にお世話になりました。ありがとうございます。
- ・ 会員も参加して楽しめる企画を見つけていきましょう！イベント実施だけでなく、プログラム提供で実績をつくりたいです。
- ・ 一般会員の参加が少ない。最初はイベント参加のみでも、楽しさを知って積極的に参加してもらおうようになれば良いと思います。